



## 6月を振り返って～思いやりの心を育む～

本年度も浜松市の小中学校において、6月12日を基準日とした「命について考える日」を設定し、自分の命も友達の命も大切にすることの大切さを再確認、再認識する取組を行いました。本校でも、「命について考える日」に校長先生からのお話を聞きました。この日以外にも、この6月、様々な場面において、子供たちの心を耕し、「思いやりの心」を育む活動を実施しました。

### — 6/10（月）朝会 校長先生のお話「命について考える日」 —

12年前の6月12日に、浜松市の中学校2年生の男の子が、自分で命を絶ちました。近くの中学校で起きた、とても悲しい出来事でした。「いじめ」も原因の1つとして考えられたそうです。悪口を言われたり、意地悪をされたりしたそうです。

「その悲しい出来事を忘れず、「大切な命」を奪うことにもつながってしまう「いじめ」を、どうしたらなくすることができるのか」、また「自分や周りの人の命について」など、みなさん一人一人が考えるために「命の大切さについて考える日」があるのです。

今朝は、①どんなことが「いじめ」になるのか、そして、②「いじめ」が起きないようにするために大事なことは何か…全校のみんなで一緒に考えてみましょう。

みなさんは、「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」って知っていますか。「ふわふわ言葉」は、聴いた相手の心を包み込んで、温かく優しい気持ちにしてくれる言葉です。「ちくちく言葉」は、その逆で、聴いた相手の心に突き刺さったり、傷付けたりして、辛く悲しい気持ちにになってしまう言葉です。

あなたは、友達に対して「ちくちく言葉」を使っていませんか。「ちくちく顔」をしていませんか。相手の心に、なかなか消すことのできない痛みや傷を残していませんか。「ちくちく言葉」や「ちくちく顔」で「いじめ」を受け傷ついた心は、どんどん弱っていきます。「いじめ」は、こうして人の心を壊していくのです。

では、「いじめ」を起こさないためには、どうしたらよいのでしょうか。そう、まずできることは、みんなが、「ちくちく言葉」を使わないことです。「ちくちく顔」や「ちくちく態度」もしないことです。

みんなが、相手の心を傷付ける「言葉」や「態度」ではなく、相手の心を温かくやさしく包み込める「ふわふわ言葉」や「ふわふわ態度」などを上手に使える人になれば、双葉小学校に「いじめ」は起こりにくくなるのではないかと、先生は考えます。きっと「ふわふわ言葉」は、「ちくちく言葉」で傷ついた心を少しずつ治す力もあるはずです。そのために、始業式で話

したように、双葉小学校を、みなさんと先生たち、そして、おうちの方や地域の方々、みんなの力で「ふわふわ言葉」があふれる「思いやりがいっぱい」の学校にしていきたいと思います。自分の命も、みんなの命も大切にできる双葉小学校にしたいですね。（藤井 隆志）

（※紙面の都合上、内容は一部省略してあります。）



— 6 / 13 (木) こころの日 「命について考える」 —



— 6 / 5 (水) 読み聞かせ —



— 6 / 17 (月) ~ 21 (金) 読書週間 —



— 各学級 道徳科授業 —

